

小・中・高における外国語教育の目標

外国語活動

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの

言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨す。

小外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの

言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨す。

中外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの

言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨す。

高外国語科

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの

言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨す。

「言語活動」とは

外国語活動や外国語科における言語活動は、記録、要約、説明、論述、話し合いといった言語活動よりは基本的なものである。学習指導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「**実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う**」活動を意味する。

したがって、外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語活動かというところではない。言語活動は、言語材料について理解したり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、**情報を整理しながら考えなどを形成する**といった「**思考力、判断力、表現力等**」が活用されると同時に、**英語に関する「知識及び技能」**が活用される。

「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」（2017年 文部科学省）

「言語活動を通して」

- 単元終末にだけ「言語活動」を設定するのではなく、1時間目から授業の中心が「言語活動」であること。
- 児童生徒に言語活動に取り組ませながら指導すること。
- 単元終末に求められる姿（言語活動を行う姿）に向けて、児童生徒が意欲を高められるようなコミュニケーションを行う目的や場面、状況の設定をするとともに、常にその目的や場面、状況を意識させること。



「言語活動を通して」指導するために 求められること

- 1時間の授業ではなく、単元などの内容のまとまりで子供に力を付けるという意識。
- 子供の既習語句や表現、教科書等に設定されている言語材料や様々な活動を把握していること、つまり**確かな教材研究**
- 子供の興味・関心、他教科等での学習内容等、どの子供にどんな質問や声掛けをすればいいかが分かること、つまり**深い子供理解**
- 学習規律がある学級を創っていること、つまり「**学習集団**」づくり
- 言葉は、使いながら使えるようになるという意識
- 子供とやり取り、子供同士でやり取りをして進める授業形態をどの教科等でも実践していること
- 子供とやり取りをする英語力